

令和4年度

学校安全(防災)総合支援事業に係る
学校防災体制推進校 実践報告

丹波市立進修小学校

足立知佳子

本校の紹介



令和4年度
児童数 101名
全8学級

校区の紹介

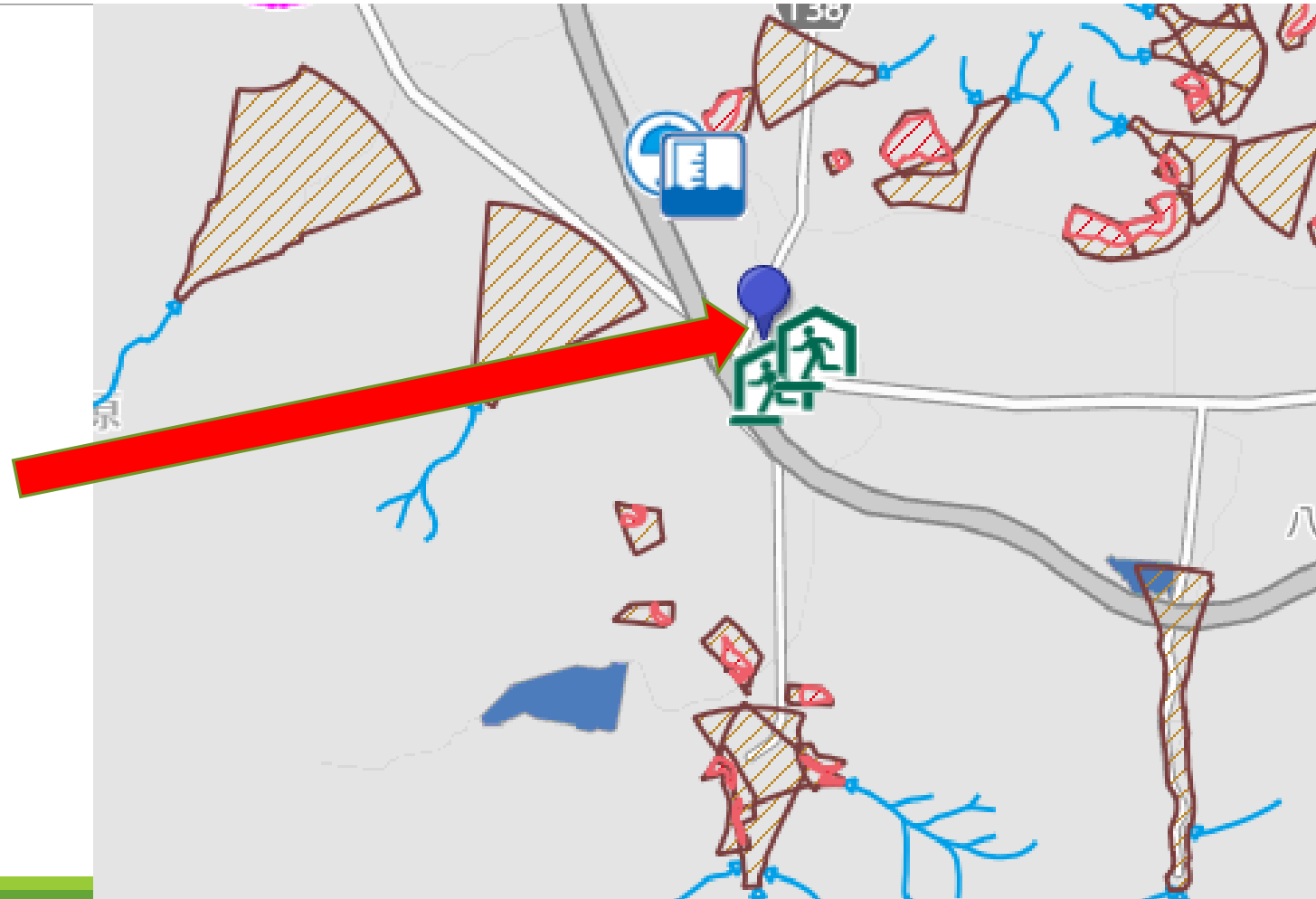
丹波市の東部に位置している



周囲を田畑に囲まれ、自然豊かで
農業が盛んな地域

校区のハザードマップ

進修小



校区の特徴



高架下を通過して登下校



校区を縦断する舞鶴若狭自動車道

本校の昨年度までの課題

- ・年間に4回行っている避難訓練が形骸化？
- ・防災マニュアルの見直しが不十分？
- ・職員の動きの十分な検証？



様々な想定の避難訓練が必要
→教職員の危機管理意識を高める
→災害時の職員と児童の実践力を培う

具体的な取り組み

- (1) 防災マニュアルの見直し
- (2) 風水害の引き渡し訓練とマニュアルの検証
- (3) 災害ハザードマップなどについての研修
- (4) 火災避難訓練とマニュアルの検証
- (5) 登下校時に地震がおきたときの避難場所、避難行動の確認
 家族防災会議～通学路での避難～
- (6) 地震避難訓練とマニュアルの検証

学校防災アドバイザー招聘

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

准教授 澤田 雅浩 先生

第1回...防災マニュアルを見直す 指導助言

第2回...火災避難訓練 指導助言

第3回...地震避難訓練（登下校時の訓練） 指導助言

丹波市 くらしの安全課 講師招聘

第1回 丹波市との連携

災害時における情報収集 ……ハザードマップ

第2回 火災避難訓練

煙体験

(1) 防災マニュアルの見直し

第1回目学校防災アドバイザー来校

地震発生時の基本行動マニュアル

学校災害対策本部設置マニュアル

気象急変時の対応マニュアル

不審者侵入時の危機管理マニュアル

事故発生時の救急体制マニュアル



指導助言していただいたこと

- ・児童の模範的な行動を前提としたマニュアルになってしまっている
- ・教師主導でマニュアル通りの訓練では教師も児童も実践力が身につかない



様々な想定での訓練とマニュアルの検証が必要

(2) 風水害時などの引き渡し訓練

オープンスクールに合わせて
コロナ禍での実施の仕方を協議

次年度、通学路の危険箇所を親子で
確認しながらの下校

親子防災学習の機会に



(3) 災害ハザードマップなどについての研修

「災害情報と発災後の対応について」

丹波市くらしの安全課から講師招聘して研修

- ・災害ハザードマップや災害情報の収集
- ・災害時の学校の役割
- ・防災備蓄倉庫の点検、防災グッズの作成
- ・マニュアルの見直し



(4) 火災避難訓練とマニュアルの検証

第2回目学校防災アドバイザー来校

丹波市職員、防災委員を招聘

- ・掃除時間の避難訓練実施

教職員には予告あり

児童には予告なし

- ・煙体験



指導助言していただいたこと

- ・発災時の発見者とその他の職員の行動の明確化
- ・児童数の把握の方法
- ・児童の避難行動について内容の明確化
- ・状況と指示のアナウンスの必要性
- ・やることを時系列にリストアップ

発見者の行動を再確認

状況と指示のアナウンス

災害時、児童の避難行動について学級指導

災害対応マニュアルの時系列リスト作成

(5) 登下校時に地震がおきたときの避難場所、避難行動の確認 家族防災会議～通学路での避難～

校内研修

家族防災会議の内容の検討

- ・『わたし、わが家の避難計画』作成
- 登下校時の避難場所の確認
- 家族との連絡方法

『わたし、わが家の避難計画書』を
家庭と学校に保管

わたしの、わが家の避難計画 (記入例)

進修小学校〇年 名前 □□□□□ 通学班 △△△△

災害がおこったときに、どのように行動したらいいのかは、日ごろから考えておくことが大切です。登下校中にも地震がおこったら、どう行動したらいいのでしょうか。発生や放送など一瞬に考えましょう。そして、お家の人とよく話し合って、避難場所や連絡先などについて確認しておきましょう。

災害の内容	地震 (震度5強 ブロック壁にくすれかけている所がある)
いつ	登下校中 (学校に行くときと学校から帰るとき)
どこに (避難場所) 登下校中に避難できる場所	(学校に近いとき) 学校 (学校と家の間隔が近いとき) 学校・広場・公園等・その他 〇〇さんの家の横の空き地
どこを (避難経路) 基本は通学路で、安全な道	(自分の家に近いとき) 自分の家の横の畑
気をつけること 気をつけること 危険な場所	・橋をわたらない ・高速道路の高架からはなれる

緊急時の連絡先(家の人と決めておく)

(親からの連絡先) 家族の携帯電話	お父さん (XXXX-XXXX-XXXX) お母さん ()
(家の人からの連絡先) 学校	75-0037 その他 〇〇さん宅 XX-XXXX

家の人に連絡がつかない場合はどうするか(家の人と決めておく)

弟と一緒に、おばあちゃんの家か、親戚の〇〇さんの家へ歩いていく。

または、気をつけて学校に行って連絡を待つ。

通学路の地震発生時の危険箇所と避難場所の確認

危険箇所と避難場所を通学班で点検



教職員で校区地図を作成

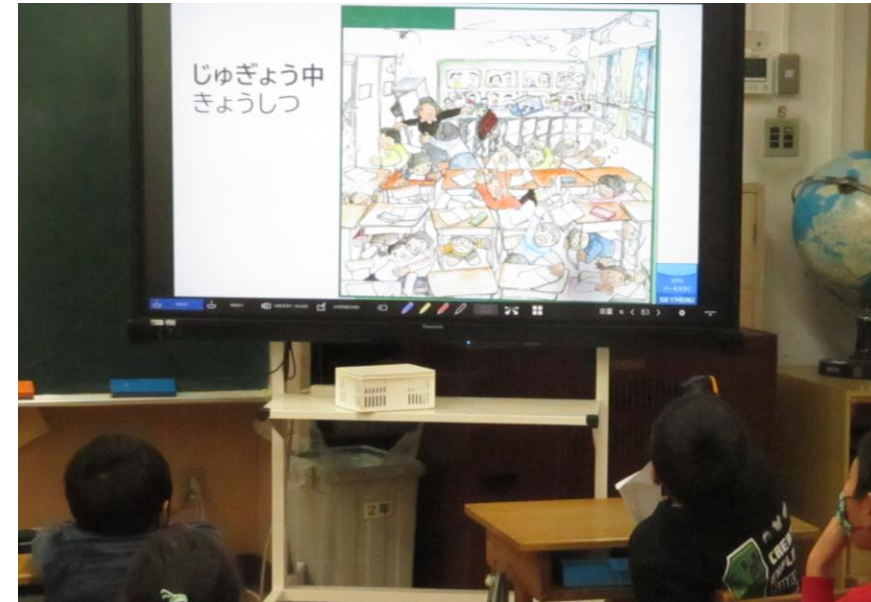
(6) 地震避難訓練とマニュアルの検証

① 休み時間に実施



避難訓練

児童が逃げ遅れた想定で
実施



学級指導

「落ちてこない・倒れてこない・動いてこない
場所で身を低くして頭を守る」

②登校時を想定して職員の訓練

第3回目学校防災アドバイザー来校



- ・登校している児童を把握し、安全確保
- ・怪我をしている児童の応急処置

登校していない児童の安否確認



学校メールで
保護者に連絡

電話等での児童の
安否確認

防災無線による地域住民への
協力呼びかけ

校区内の地図で通学路と 避難場所の確認



③ 下校時での実施



「落ちてこない、倒れてこない、動いてこない場所で身を低くして頭を守る」

指導助言していただいたこと

- ・状況の共通理解の仕方や、けがをした児童への対応についての確認
- ・登校時の避難行動について、保護者・児童と共通理解
- ・放送機器や防災無線などの機器操作の周知
- ・防災地図の設置



教職員が機器を操作できるよう訓練
登下校時の訓練を保護者、地域に呼びかけ実施
家庭、地域の危機管理意識の向上
児童自身の防災スキルの向上

3. 成果

- ・ミニ訓練、教職員だけの訓練だけを含め7回の訓練を実施し、教職員の危機管理意識が向上した。
- ・様々な想定の中で、児童、教職員の行動のシミュレーションを行うことができ、今後の実践力につながるものとなった。
- ・家族防災会議の呼びかけで、保護者の理解を得ることができ、家族で防災について考えてもらう機会となった。
- ・災害対策本部の設置マニュアルを見直すことで、災害時の学校の役割について認識することができた。

4. 今後に向けて

- ・様々な想定で、緊急時の教職員同士の連絡の取り方、保護者への連絡、保護者から学校への連絡方法など決めておく。
- ・学校での防災教育の取り組みを保護者、地域に発信し、防災について考えてもらうきっかけをつくり、家庭や地域と連携して児童が安全に避難できるように、取り組みを広げていく。
- ・継続的に取り組む中で、防災マニュアルの評価、見直しを行い、活用しやすいものにしていく。